

平成23年度 島根大学「萌芽研究部門」研究プロジェクト 計画書

1. プロジェクト名称	「出雲国」成立過程における地域圏の形成と展開にかんする総合的研究					
	(英訳名)	Integrated research on approval process in “Izumo-no-kuni”				
2. プロジェクトリーダー	所属	法文学部社会文化学科	職名	教授	氏名	大橋泰夫
	現在の専門	日本考古学			学位	博士(文学)
<p>3. プロジェクトの概要 ①本研究プロジェクトで何をどこまで明らかにするか、②国際的あるいは専門的な視野からプロジェクトの必要性・重要性・ユニークな点③島根大学で行う意義・大学の発展にとって期待される効果、について簡潔に記入してください。</p> <p>① 本研究プロジェクトの目的 本研究は、『出雲国風土記』に記述される地域的なまとまりが行政的に成立するに至る過程を、考古学および文献史学の史資料をふまえて通時的かつ実証的に把握しようとするものであり、地域というまとまりがどのようにして、いかなる背景をもとに形成され、展開したのか、そのメカニズムを探ることを目的とする。あわせて、出雲の成立や古代出雲にたいする認識が、古代から現代に至るまでそれぞれの時代や社会のなかでどのように形成され、変遷してきたのかを明らかにし、古代出雲の姿を多角的に説明することをめざす。</p> <p>② 本プロジェクトの特色 古代出雲についての認識は、『出雲国風土記』の存在や『記紀』にみる出雲系神話の豊富さに垣間見えるが、いっぽうで出雲を特別視する傾向もあり、じつに様々かつ独特の「出雲像」や「出雲古代史観」が生み出されている。本プロジェクトは、こうしたイメージにたいして、あくまでも実証的なデータをもとに、通時的に出雲にみる地域的特質を抽出・考察しようとするものである。また、地域という認識を考古学と文献の双方からアプローチしうるのは、出雲の資料的特性であり、本研究が有する最大の利点でもある。</p> <p>③ 意義と期待される効果 本研究は、文献史料と考古学資料を豊富に持ち合わせている出雲地域の特色をふまえた論題であり、地域にみあった研究課題と位置づけうる。そのうえで、古代出雲の虚像と実像を明確に識別し、科学的に裏づけられた歴史像を提示することは、他地域を素材とするより大きなインパクトがあり、より豊かな歴史認識を育む素地をつくるうえでも重要な意義がある。また、実証的な研究を推進するには、史資料の実査は不可欠である。そうした史資料のなかには、『出雲風土記抄』をはじめ島根大学所蔵資料も含まれており、歴史文化遺産の持続的保存・活用を促進しうる点、地域貢献という点でも資するところが大きい。</p>						
<p>4. 平成22年度の主な成果 特に重要なものを箇条書きにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先史から古代までの考古資料の確認作業と資料化を行い、基礎資料の収集、整理作業を行った。 ・廻原1号墳の測量・発掘調査を行い、墳形(方墳)や規模(一辺9-10m)、埋葬施設の構造が明らかになり、出雲における古墳時代終末期から奈良時代にかけての動向を考える上で重要な成果となった。 ・文献史的検討として、出雲国風土記の諸写本、古代出雲にかかわる史料などの史料の調査・収集を行い、歴史的事実としての出雲の形成過程を研究していく上で、基礎資料となる作業を行った。 ・出雲国風土記の注釈書の形態や残存状況の一端が明らかになり、今後の研究を進めるうえでの基礎的な成果が得られた。 ・研究成果について、市民講座、説明会、インターネットHP、印刷物などで広く市民に公開した。 						
5. 配分経費 (単位:千円)						
平成(年度)	23				合計	
配分予定額(千円)	1,887(千円)				1,887(千円)	

6. プロジェクト推進担当者 平成23年度に限って記入してください。			計 名
ふりがな(ローマ字) 氏 名(年齢)	所属部局(専攻など)・職 名	現在の専門 学位	役割分担
(プロジェクトリーダー) 大橋 泰夫	法文学部社会文化学 科・教授	考古学 博士(文学)	研究総括、考古学的検討 出雲国府成立と出雲国形成過程の調査 研究、国府関連遺跡の調査研究。廻原 1号墳の調査研究(共同)。
大日方克己	法文学部社会文化学 科・教授	日本史学 博士(史学)	文献史的検討 国史・出雲国風土記・延喜式等の文献 史料による出雲形成過程の調査研究、 および中世・近世・近代における古代 出雲や出雲形成過程に関する学問・思 想の調査・研究。
山田 康弘	国立民俗博物館研究 部・准教授	考古学 博士(文学)	考古学的検討 先史
会下 和宏	ミュージアム・准教授	博物館学・考 古学 学士	考古学的検討・普及啓発 出雲地域の弥生墓制と他地域墓制(日 本列島・東アジア各地)との比較研究。 先史～古代出雲の環境考古学的研究 「古代出雲」をキーワードにした普及 啓発活動の博物館学的実践
岩本 崇	法文学部社会文化学 科・准教授	考古学 博士(文学)	考古学的検討 弥生・古墳時代における集団構造・集 団関係形成についての調査研究、廻原 1号墳の調査研究(共同)。
角田 徳幸	島根県教育庁文化財課 古代文化センター・専 門研究員	考古学 学士	考古学的検討 廻原1号墳との比較検討のため、出雲 国内と、関西・東日本における後・終 末期古墳の現状把握。

7. 研究計画および達成目標

[平成23年度]

[計画概要]

平成23年度は、22年度に引き続いて下記の3点を中心に研究活動を行う予定である。

1. 「古代出雲」に関連する考古学資料・文献史料の資料化継続を行い、データの収集を可能な限り進め基礎資料の充実化に努める。
2. 「出雲国」成立にかかわる重要遺跡のフィールド調査である、松江市廻原1号墳の発掘調査を引き続いて行う。その上で、廻原1号墳の図面整理作業、出土遺物の図化作業について着手する。
3. 研究成果の公表・普及啓発を実施する。島根大学ミュージアムと連携して市民講座を開催し、HPによる情報の発信を行う。

以上の研究活動を行う中で、研究メンバーがそれぞれの専門分野の立場から、古代出雲の多角的な姿の一端について、論文や学会発表を通して研究成果を公表する。

[平成22年度評価を踏まえた本年度計画の重点事項]

- ・出雲国成立の過程を考古学と文献史学の観点から把握していくことを重視し、考古学と文献史学との学際的研究の一層の進展を図る。
- ・今年度も引き続き、研究成果を市民に向けて発信していく。
- ・今後の展望に向けての検討、作業を引き続いて行う。具体的には、研究成果報告の刊行準備、外部の研究機関(国立歴史民俗博物館や島根県古代文化センター)との連携などを模索する。

<p>【研究項目】 研究項目には①,②,…の様に番号をつけて箇条書きしてください。</p> <p>① 史資料の閲覧・資料化を継続し、データの収集を可能な限り進め、その一部について分析も行う。</p> <p>② 考古学的フィールド調査として、松江市朝酌町所在の廻原1号墳の調査を継続して行う。</p> <p>③ 廻原1号墳の発掘調査後に、発掘調査報告書作成に向けて準備作業を行う。</p> <p>④ ミュージアムと連携して、成果を広く市民・研究者に普及する。</p>	<p>【達成目標】 対応する研究項目に対して第三者が本年度に達成できたと判断できる具体的な目標を記入してください。</p> <p>・史資料の調査・収集と、それに基づくデータベース・リストの作成・充実化。あわせて近世における古代出雲研究に関する資料の分析も行う。</p> <p>・墳丘の形態・規模、埋葬施設の状況を把握するための発掘調査を実施する。</p> <p>・廻原1号墳の発掘調査後に、出土遺物等の整理作業を行い、発掘調査報告書作成に向けて基礎作業を行う。関連遺跡との比較研究を進める。</p> <p>・公開講座の開催、HPによる情報の発信</p>
---	---

8. 平成23年度経費明細 研究項目と達成目標ごとに使用する経費を記入してください。(単位:千円)

・経費は本研究プロジェクトの遂行に必要な経費です。

・経費は政策的配分経費(a)(今回配分された金額)とそれ以外の資金(学内経費、外部資金)とし、それ以外の資金で充当させる場合は「配分経費以外(b)」の欄に金額を記入してください。

・研究計画の項目番号ごとに設備備品、旅費、人件費、消耗品費などに分けて、それぞれの明細を出来るだけ具体的に記入してください。

・単品の設備備品は配分経費(a)と配分経費以外(b)を合算して購入することはできませんのでご注意願います。

事項(品名)	(対応する研究項目番号)	配分経費(a)	配分経費以外(b)	合計(a+b)
設備備品				
図書	①～③	200	0	200
消耗品費				
事務用品	①～③	87	0	87
現地調査用品	③	200	0	200
写真関連用品	③・④	200	0	200
旅費				
史資料調査	①・②・③	500	0	500
その他				
レンタカー代	③	300	0	300
謝金	③	100	0	100
印刷費	③	130	0	130
印刷費	④	100	0	100
写真撮影・複写費	②・③	70	0	70
合計		1,887	0	1,887

9. 研究終了後の展開(科研費などへの申請等) 図などで解りやすく示してください。

研究終了後は、萌芽研究の成果である、「古代出雲」に関連する考古学資料・文献史料の基礎データを基にして、さらに『出雲国風土記』に記述される地域的なまとまりが行政的に成立するに至る過程を、通時的かつ実証的に把握する研究を進める。将来的には、研究戦略会議から指摘があった、本研究プロジェクトの構成が考古学分野に片寄りすぎるとの点を受けて、大学内外を問わず文献史学などの研究者を増やして本研究プロジェクトを発展させる予定である。そのため、萌芽研究終了後も、法文学部山陰研究センターのプロジェクトとして研究を継続し、科学研究費をはじめとする外部資金獲得の申請を行う。その上で、出雲国の成立・形成過程の研究を深め、科学的に裏付けられた古代出雲の歴史像に関する研究成果を教育や地域貢献に活かしていく。

